

久喜市における異業種からの農業参入支援について ～継続的支援により市との「地域農業の振興に関する協定」締結へ～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）では、2022年より、武蔵野金属株式会社（越谷市、代表取締役 立花 晋哉）による久喜市での農業参入の取組みを継続的に支援しております。

今般、当行の支援を通じ、同社と久喜市（市長 梅田 修一）による「地域農業の振興に関する協定」が締結されましたので、お知らせします。

当行では、県内農業の振興および課題解決に貢献するため、2008年に専門チームを立ち上げ、資金調達・販路拡大等の生産者支援はもとより、異業種参入を通じた新たな担い手創出や耕作放棄地・遊休農地の利活用などに積極的に取組んでおります。

武蔵野金属株式会社は、60年以上の歴史を有する鉄スクラップ加工処理事業者です。同社では地域への更なる貢献と従業員の働きがい創出などを目指し、久喜市内の主力工場周辺の遊休農地を活用した農業参入を目指しておりました。当行では2022年より、営農計画書の作成や久喜市および農業委員会との協議、遊休農地の復元作業、栽培施設の整備など多岐に亘る支援を行い、2023年夏、トマトのハウス栽培・サツマイモの露地栽培事業への参入を実現しました。

その後、同社では「うねぼれトマト」ブランド^{注1}の立ち上げやトマトジュース商品化などに取組み、トマトジュースは2025年にクルーズ客船「飛鳥Ⅲ」のウェルカムドリンクに採用^{注2}されるなど、魅力ある地域産品として認知・浸透が進んでおります。

農業参入から3年が経過し収量の安定的な確保が可能となってくるなか、事業の更なる発展に向け、同社では農地所有適格法人^{注3}の設立を目指すこととなりました。これに対し、当行では周辺遊休農地の活用促進などについて久喜市への仲介を実施し、市が推進する農業活性化・遊休農地解消の好事例として、2025年12月、「地域農業の振興に関する協定」第一号として締結に至っております。

当行では、今後も久喜市をはじめとした関係機関と連携し、同社の取組みを支援していくことで地域農業の一層の振興に貢献してまいります。

注1 糖度7度以上の玉トマトを「うねぼれトマト」ブランドで販売し、好評を博しています。

注2 「ミッドシップスイート」を47都道府県がプロデュースするプロジェクトに、当行が埼玉県を代表して参加、お客様をお迎えするウェルカムドリンクに「うねぼれトマトのトマトジュース」が用いられています。

注3 一定の要件のもと、農地の所有・経営が認められる制度です。これにより農業経営の効率化・規模拡大、安定した事業運営に繋げることが可能となります。

1. 支援企業の概要

企業名・代表者	武蔵野金属株式会社（代表取締役 立花 晋哉）		
本社所在地	越谷市南越谷2-2817		
設立	1963年3月	資本金	1,000万円
主な事業内容	鉄スクラップ加工処理業		

次ページへ

2. 農業への参入状況

参 入 地	久喜市 原地区 (約 10, 700 m ²)	
作 物	ハ ウ ス 栽 培	トマト、メロン
	露 地 栽 培	サツマイモ
* 今後もブドウ等果樹、露地野菜など新規作物に挑戦していく予定		
販 売	・久喜市の農場、越谷市の本社近隣設置の直売施設にて販売	
加 工 品	・トマトジュース ・冷凍焼き芋、さつま芋ポタージュ など	



遊休農地を活用し参入した久喜市の農場



同社ブランド「うぬぼれトマト」



「うぬぼれトマト」トマトジュース



冷凍焼き芋

3. 久喜市との「地域農業の振興に関する協定」について

締 結 日	2 0 2 5 年 1 2 月 1 7 日
目 的	遊休農地等の減少及び地域農業の振興を推進
連 携 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地の有効活用に関するこ ・地域農業者・住民との協力に関するこ ・農産物の生産・流通・販路拡大に関するこ ・環境に配慮した持続可能な農業の推進に関するこ ・人材育成及び地域貢献に関するこ

以 上

報道機関からのお問い合わせ先
地域サポート部 成長分野グループ 羽鳥 達也、長嶋 聰
TEL (048) 641 - 6111 (代)